

海外
論文
レポート

現代イギリス社会の高齢者問題

- Help the Aged information sheets から作成した状況と諸問題 -

ダイアンヌ・ウィルコックス教授

(リーズ大学ヨーク/セント・ジョン・カレッジ)

(2001年9月)

訳 中川雄一郎 (明治大学)

【目次】

はじめに：現代の高齢化問題

- 1 退職人口
- 2 所得
- 3 住宅
- 4 保健・医療

むすび

はじめに：現代の高齢化問題

現在のイギリスにあって私たちは、一般的に人びとが長生きしていることを証明するデータに複雑な思いをもって反応する。私たちは、高齢化対策として好結果をもたらした多くの側面に拍手を送りはするものの、他方ではなお多くの人たちが高齢者のお世話と好結果をもたらすような高齢化対策の蓄積とに関する社会の能力に懸念を抱かざるを得ない状況をも体験しているが、そこには「人口の断面図」に見られる現代的な変化と密接に関わる重要な問題が存在するのである。それらには次のような問題が含まれている。すなわち、

(1) **社会的問題**：新しい高齢者とは誰か 彼らはどのように社会的に区別されるのか

新しい高齢者はどこで・どのようにに生活するのだろうか、たった一人でののか、それとも共同してなのか。彼らを援助する者は誰か この新しい「^{コミュニティ}一団」の存在は、さまざまな世代にとって、また家族にとって、いかなる意味をもつのだろうか 高齢の人びとはどのようにして社会的に関係を保ち続けるのだろうか 彼らの自立と尊厳はどのようにして守られ得るのだろうか。

(2) **健康・医療問題**：私たちは高齢者の健康をどのようにして促進するのか ^{コミュニティ}地域社会の医療関係者が高齢者をさらに良く理解するようになるためには、どのようなことがなされ得るのだろうか 高齢者が高齢者介護およびそれに関連するケアにますます依存していく問題は、コミュニティの範囲をもっと広げてみた場合、他のグループの保健・医療事業にどのような影響を及ぼすのだろうか。

(3) **経済的問題**：長生きされている後期高齢者はどのようにすれば経済的に困らないようになるのだろうか 料金の支払能力はあるのだろうか、保険金の支払能力はあるのだろうか。高齢者は、伝統的な(あるいは早すぎる)退職年齢に達した以後もこれまでの経済的地位(および所得能

力)を維持できるのだろうか。私たち(より広い社会)には、高齢者が依然として労働力としてとどまることを許す余裕があるのだろうか 私たちには、高齢者のもつ^{スキル}技術や専門技術・知識を失っても構わないほどの余裕があるのだろうか。

(4)文化的問題: 高齢者グループの成長はどれほど目に見えてはっきりしており、またどれほど高く評価されているのだろうか 私たちは、芸術・メディア・日常の会話において、どのようにして高齢者の代理を務めているのだろうか 私たちは、私たちの社会を形成していく際に、高齢者が果たしてきた過去と現在の役割への関心と好意をどれほど適切に示しているというのだろうか。

(5)政策的問題: 国家および公的機関・私的機関・ボランティア組織などの多元的な機関や組織が高齢者の幸福をより一層促進するのに果たすべき適切な役割は何か 国家は高齢者の特殊な政策決定にどこまで関与すべきなのか 高齢者と彼らの代弁者は、(問題解決の手順を示す)政策日程についての情報を得られるのだろうか。

そこで以下では、このような高齢(化)問題を抱えているイギリス社会における高齢者の実態について 統計を援用して 見ていくことにしよう(なお、以下の情報シートは、高齢者人口についての統計を集めたものであるが、それには人口統計学的要因、所得、住宅および保健・医療のような問題が含まれている)。

1 退職人口

イギリスにおける高齢者人口

人口に占める高齢者の数は、(表1に見られるように)過去数十年にわたって増加してきており、また将来においても増加すると考えられる。

表1: イギリスの人口推移 (単位 100 万人)

	1961	1981	1991	1998	2001	2021
65 - 74 歳	4.2	5.1	5.2	5.0	4.8	6.8
75 歳以上	2.1	3.4	4.0	4.3	4.2	5.6
65 歳以上計	6.3	8.5	9.2	9.3	9.0	12.4
総人口	52.8	56.4	57.8	59.2	59.6	62.2

出所: *Social Trends 29, 1999, table 1.5 and Population estimates. Mid 1998. Table 1.*

人口の高齢化

表1から分かるように、高齢者総数が増加しているにもかかわらず、65歳以上の高齢者の総人口に占める割合はおよそ15 - 16%でほぼコンスタントに推移している。実際の高齢者数および総人口との関係の双方から見て、増加している人口の年齢部分は75歳以上の人たちのそれである。この年齢層の人たちの割合は、1961年の4%から2021年には9%へ増加すると予測されている。100歳レベル(100歳およびそれ以上の)の人たちは、「激増」と見なされている。実際数は、約6,000人であるから、依然として相対的に少ないのであるが、100歳以上の人たちは毎年約7%増加しているのである(「1999年人口動向」)。かくして、65歳以上の高齢者の全人口に占める割合はおおむねコンスタントに推移していくにしても、この年齢層のうち後期高齢人口が増加することになるだろう。こ